

新「道の駅」かんおんじ(仮称)基本計画

—概要版—

～四国まんなか「出会う」ターミナル～



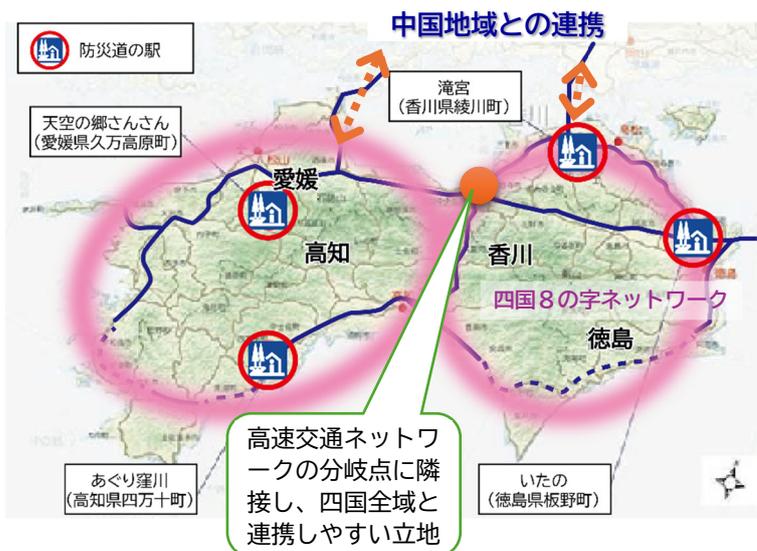
令和7年2月

1. 道の駅の必要性

本市は、四国のほぼ中央部に位置し、地理的条件やアクセス性に恵まれています。歴史、気候や地形によりもたらされる産品、国内外から人を惹きつける名所旧跡等の多くの資源を有していますが、そのポテンシャルを十分に発揮できていません。

また、人口減少が今後も続くことが見込まれ、地域コミュニティの機能低下や生活関連サービスの縮小、税収減による行政サービス水準の低下など様々な影響が懸念されます。さらに近年、大規模な自然災害が相次いでおり、特に南海トラフで発生する地震の被害規模は東日本大震災を上回る見込みとなっています。

これらの課題に対応するため、多様な関わりを持つ人々(交流・関係人口)を増やし、地域の魅力を発信し、「まち」と一体となって地域を活性化することができる道の駅を整備することは非常に有効な施策の1つとなります。また、災害が発生した際には本市のみならず四国全域の広域的な防災拠点としての役割を担える機能を道の駅に整備することで、安全・安心に暮らせるまちの構築に寄与することができます。



出典:国土交通省 HP を加工して作成
四国全域での広域的な防災拠点性

2. 建設候補地

基本構想において、様々な評価指標により比較検討した結果、国道 11 号沿いの観音寺市ちょうさ会館付近に広がる大規模空閑地を新「道の駅」の建設候補地としています。

なお、具体的な敷地については、運営事業者選定後に決定します。

< 建設候補地の強み >

- ① 交通量や連携可能な公共施設との相乗効果により最も集客性が望める。
- ② 大部分が農用地区域から外れている。
- ③ 固定資産税評価額が比較的安価であることから財政負担を抑えることができる。
- ④ 過疎対策事業債の活用が可能。



出典:© NTT インフラネット, Maxar Technologies
建設候補地

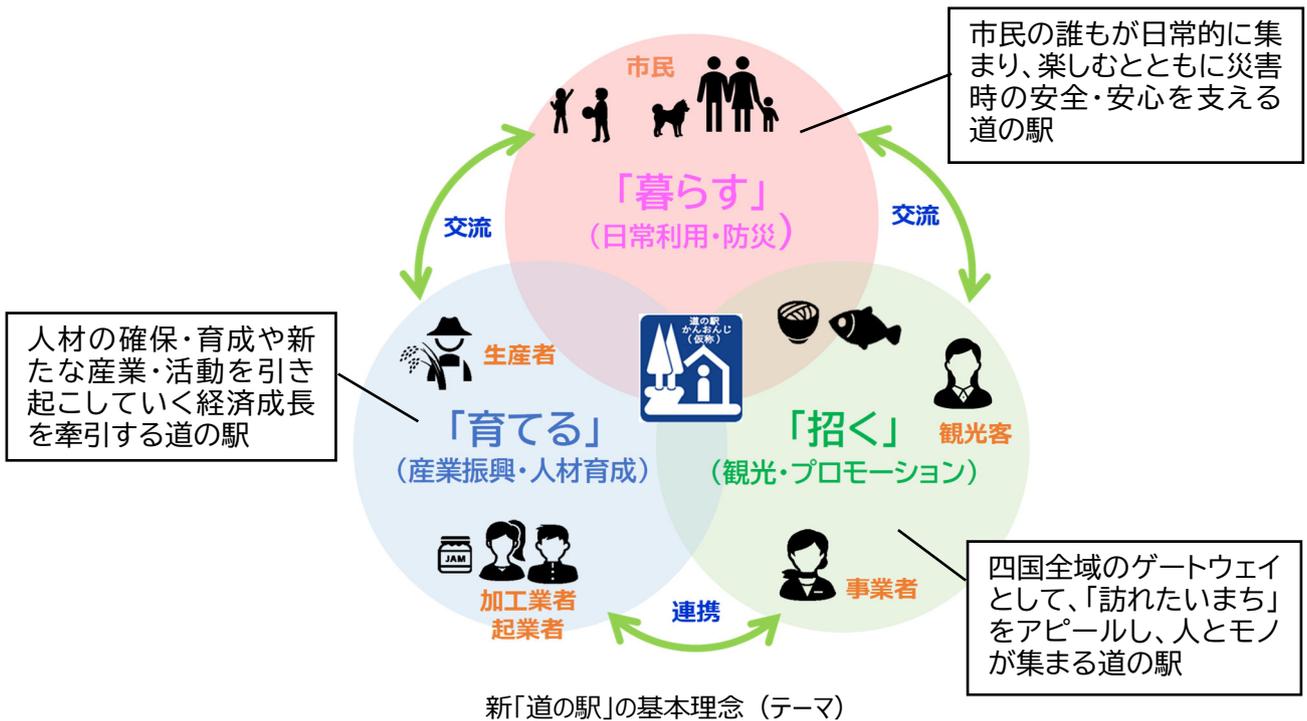
3. 新「道の駅」の基本理念・基本目標

新「道の駅」の基本理念(テーマ)

「暮らす」「招く」「育てる」の真ん中で、新たな交流や体験を生み出す「道の駅」

「道の駅」を核に、「暮らす」「招く」「育てる」の3つの視点から、市民や来訪者を市内外の産業や資源につなげ、本市のみならず、広くは県内や四国全域のゲートウェイとして、にぎわいを広域に波及させます。

また、本市との交流人口の増加に加え、さらに強い結びつきを有する関係人口の増加により、本市と四国や全国をつなぐ拠点とします。



4. 導入機能の検討・施設の規模

新「道の駅」の導入機能については、アンケート調査等で 400 以上の意見が出され、その意見を踏まえながら、市の課題解消や新「道の駅」の基本目標等達成のために特に重要度の高い導入機能(案)を整理し、市民検討委員会・作業部会で最終的に 23 の導入機能としてまとめました。

施設の規模については、導入機能ごとに各種設計要領、ガイドライン算定値及び類似機能面積等を参照して算出しました。

敷地面積は、約 38,000 m²、建物の延べ面積は約 3,500 m²と想定しています。



作業部会の様子

5. 新「道の駅」かんおんじ（仮称）の整備イメージ



▲情報提供コーナー
市内の観光施設や地元のお店の情報、周辺自治体、民間イベント等の情報を提供



▲自動販売機コーナー
夜間の道の駅利用者を想定し、観音寺限定グッズや冷凍スイーツ等を販売



▲産業振興施設
出典:SEE SEA PARK(福井県おおい町)
地元事業者などの開発商品の試行販売、チャレンジショップの出店が可能



▲大屋根広場
出典:安満遺跡公園(高槻市)
雨天時にも子どもが遊べる遊具を設置するほか、多目的屋外広場と屋内施設をつなぎ、イベント空間としても活用可能な全天候型大屋根広場を整備



▲屋内キッズスペース
出典:左:道の駅西条のん太の酒蔵 右:和歌山イオン
子どもが遊ぶ姿を見ながら一息つける飲食関連施設に近接した屋内遊具を整備
あわせてベビーコーナーや子育て関係用品をいつでも購入できる自動販売機を設置



▲カフェ・オープンラウンジ
出典:文化・子育て複合施設おにクル(茨木市)
中高生が休日などにゆったりと過ごせる第3の居場所となるオープンラウンジをカフェと一体的に整備
市民活動拠点としても利用



▲車中泊専用スペース
出典:RVパーク VISON
<https://vison.jp/shop/detail.php?id=123>
安全・安心で快適なくるま旅を可能にする、車中泊に特化した有料宿泊エリアを整備



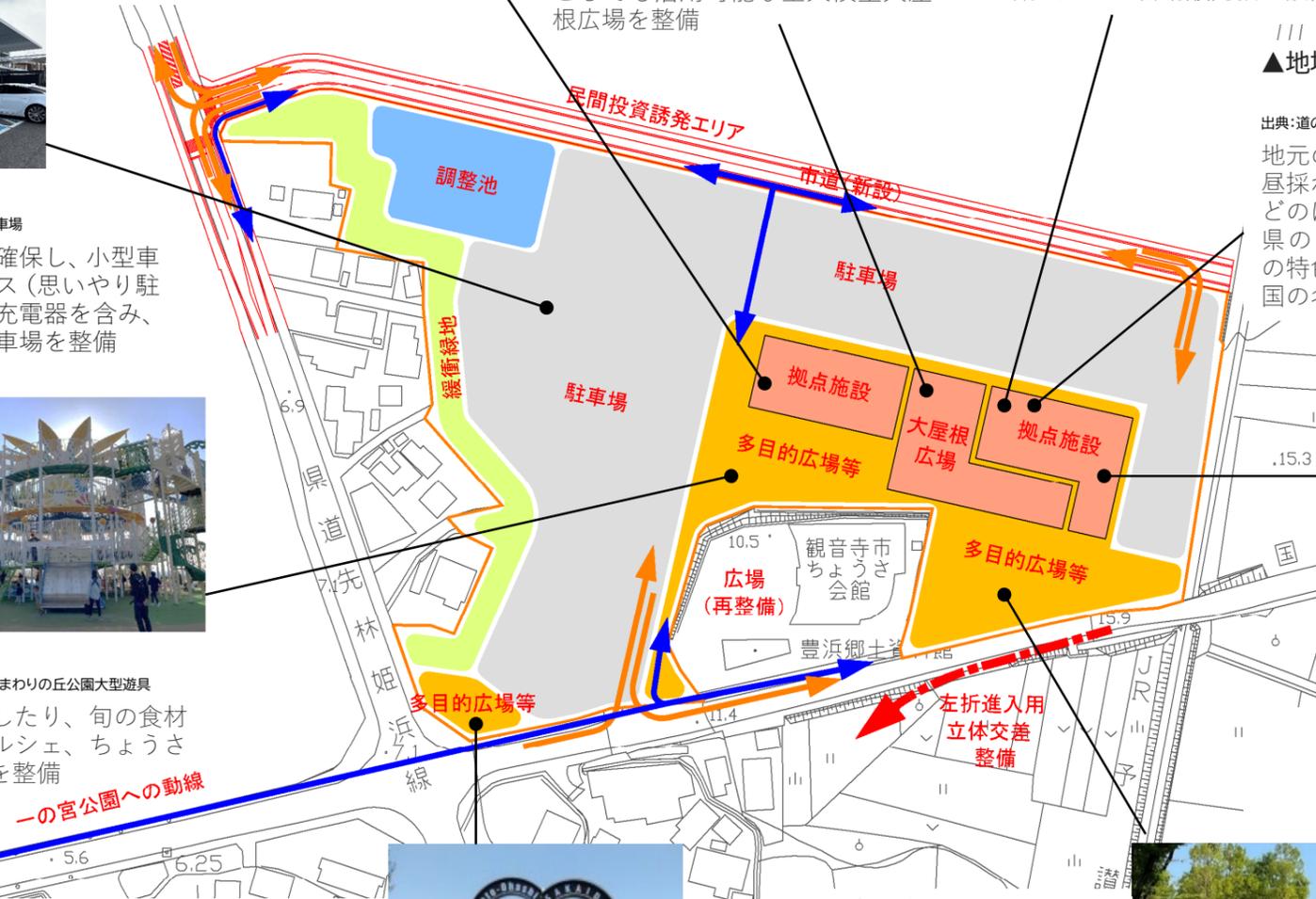
▲駐車場
出典:観音寺市役所 思いやり駐車場
駐車マスを広めに確保し、小型車用屋根付きスペース(思いやり駐車場)やEV急速充電器を含み、誰にでも優しい駐車場を整備



▲多目的広場
出典:左:道の駅むなかた <https://www.michinoekimunakata.co.jp/> 右:ひまわりの丘公園大型遊具
子どもたちが安全に遊べる屋外大型遊具を設置したり、旬の食材を販売する直売市やキッチンカーによる食のマルシェ、ちょうさのイベントなどにも活用可能な多目的屋外広場を整備



▲シンボルゾーン(スポット)
出典:(公財)瀬戸大橋記念公園管理協会
銭形砂絵「寛永通宝」、ちょうさ祭りなど道の駅のランドマークを設置
JR 予讃線を走るアンパンマン号、瀬戸内海に沈む夕陽に照らされた茜色の空などの写真が撮影できるスポットを整備



▲水景施設
出典:東遊園地(神戸市)
水深が浅く、子どもが安全に遊ぶことができる水盤及び水景施設を整備



▲地場産センター・地産地消マルシェ
出典:道の駅川場田園プラザ HP引用
地元の名産品や肉、魚、朝採れ・昼採れの野菜及び果物、パンなどのほか、周辺自治体、四国全県の特産品や姉妹都市、全国の名産品を販売



▲軽飲食フードコート・地産地消レストラン
出典:道の駅川場田園プラザ HP引用
観音寺市や香川県産の食材にこだわりつつも手軽に飲食可能な料理等を提供するフードコート、瀬戸内海で水揚げされた新鮮な魚介類や地場野菜等を食材にしたもの、健康を意識したものなど、「観音寺のグルメ」を堪能できるグレードの高い料理を提供



【凡例】

記号	名称
	事業予定地
	車両動線
	車両動線(立体交差)
	歩行者動線

※本整備イメージは基本計画策定時の案をイメージした図のため、今後、検討内容を踏まえ変更します。

6. 来場者数予測

新「道の駅」の来場者数は、前面道路交通量及び国立社会保障・人口問題研究所による圏域5県（香川・徳島・高知・愛媛・岡山）の令和12（2030）年推計人口に加え、アンケートで得られた係数等に基づき85万人/年と想定しています。

来場者数＝①道路利用者の立寄人数＋②新「道の駅」を目的とした来場人数＝**85万人/年**

7. 整備方法・概算事業費等

<整備方法>

新「道の駅」は、国道11号沿いに整備することから、一体型での整備に向け、道路管理者である香川河川国道事務所と協議・調整を行っています。

<概算事業費（イニシャルコスト）>

新「道の駅」整備における**概算事業費は、約75億1,900万円**、起債に係る**利息は約3億1,700万円**で、併せて**総額約78億3,600万円**と想定しています。

なお、新「道の駅」の整備においては、①一体型による道路管理者の整備分、②国の交付金や補助金、③過疎対策事業債に係る交付税措置などを活用します。

また、整備時に活用する過疎対策事業債の償還は、令和6（2024）年度から始まり、令和22（2040）年度までの17年間で完了する予定で、元金及び利息を併せて合計で約18億4,400万円の一般財源が必要です。

1年あたりでは最大約1億6,700万円の一般財源が必要となりますが、この額が**観音寺市一般会計予算額（令和6（2024）年度310億9,000万円）に占める割合は、約0.5%**となります。

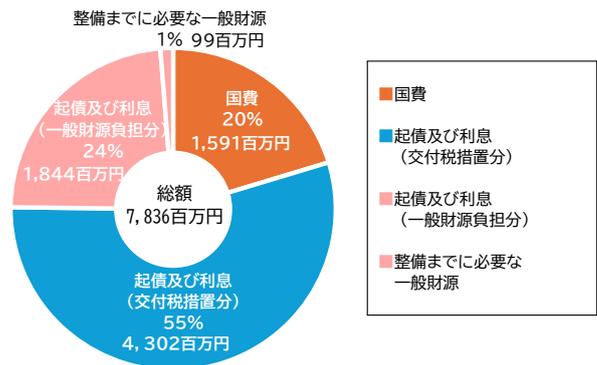
結果として、整備までに必要な一般財源と合わせ、**市の実質的な負担は、概算事業費の約25%となる約19億4,300万円**と想定しています。

<収支予測>

アンケート調査から予測した単価や各種設計要領、ガイドライン算定値を基に算定した結果、年間売上高は約8億2,400万円、維持管理費は約7億6,500万円、指定管理料は約2,800万円と想定しています。

それらの金額を基に算定した新「道の駅」の**経常利益は、年間約7,700万円**と想定しています。

このうち、仮に年間売上高約8億2,400万円の5%（約4,100万円/年）を納付金として市に支払った場合でも、経常利益は約3,600万円となり良好な収支が期待できます。

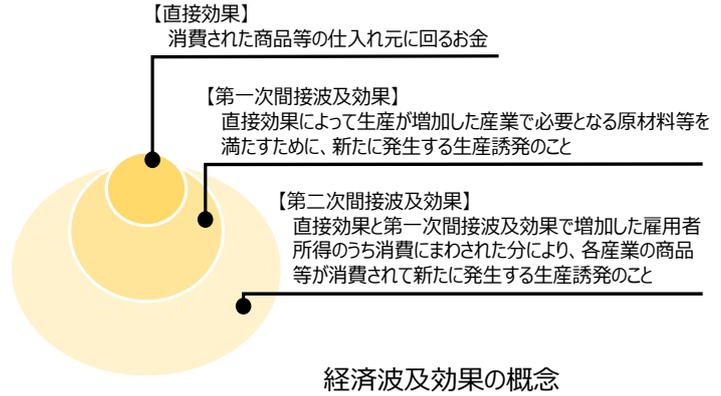


整備に必要な概算事業費総額（利息を含む）

8. 整備効果

道の駅の整備による**想定年間売上高は約8億 2,400万円、波及効果計は約12億 3,400万円**を想定しています。

また、新「道の駅」以外での観光消費額の増加や、本市や地域産品が評判になることで、市民のやりがい創出やシビックプライドの醸成、さらに災害時の防災拠点として安全・安心な暮らしに寄与します。



香川県内に波及する波及効果額

	生産誘発額 (千円)	粗付加価値誘発額(千円)		就業者誘発数 (人)
			うち雇用者所得	
直接効果	824,000	424,000	213,000	105
第一次間接波及効果	270,000	147,000	60,000	20
第二次間接波及効果	140,000	90,000	32,000	9
波及効果計	1,234,000	661,000	305,000	134

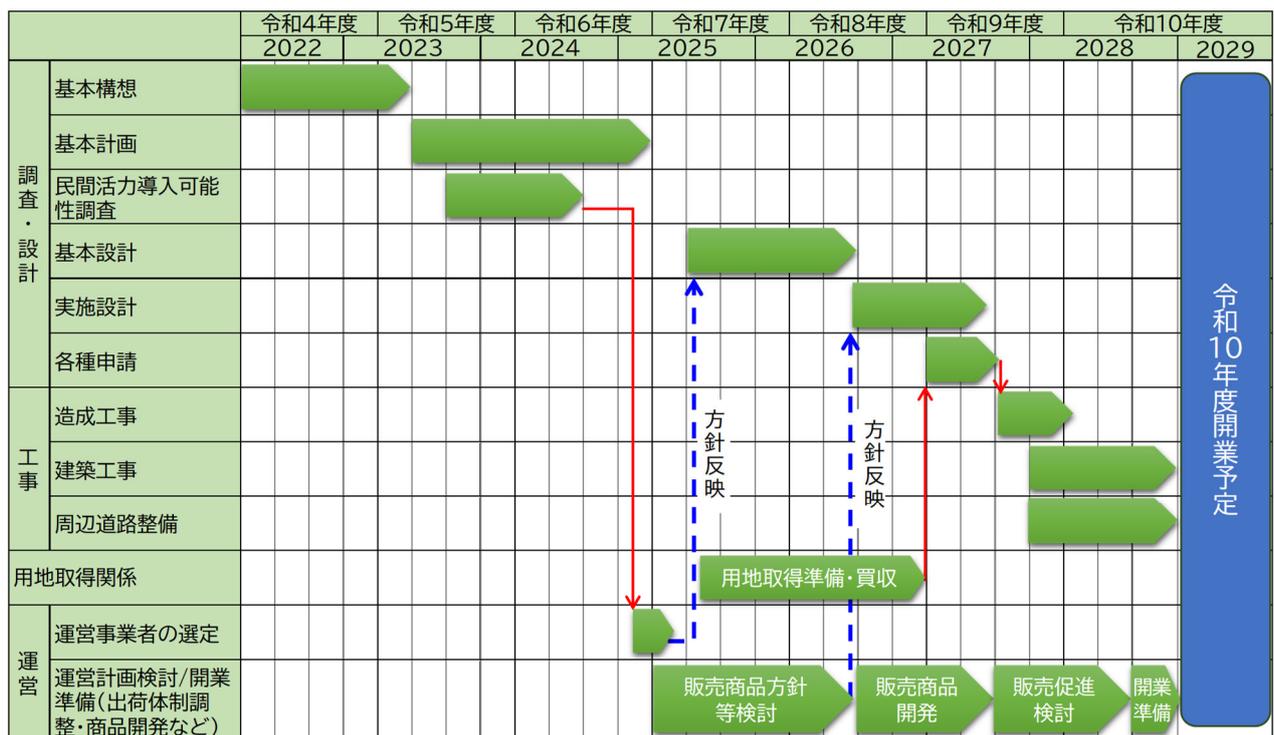
誘発効果倍率 = 波及効果計 ÷ 直接効果 = 1.5 倍

9. 今後のスケジュール

市民や事業者の意見を聴きながら、以下の想定スケジュールにより令和 10(2028)年度中の開業をめざし検討を進めていきます。

ただし、想定スケジュールについては、今後の詳細検討や関係機関との協議等により変更する可能性があります。

想定スケジュール (案)





基本計画はこちら

観音寺市政策部プロジェクト推進課
〒768-8601 香川県観音寺市坂本町一丁目1番1号
TEL:0875-23-7577 FAX:0875-23-3920